

第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				R2年度（年度末実績）		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
八雲町	①自立支援・介護予防・重度化防止	町内の介護予防の取り組みは、行政主体の介護予防教室が中心である。既存の介護予防教室では、参加者が限定され、また、開催回数も少ないため、継続的及び自主的な介護予防に繋がらない側面もある。 高齢者全般を対象とした介護予防教室を広域に渡る町内全体で実施することは、行政の力だけでは困難である。運動を目的とした集まりを実現するためには、町民の自主的な活動が必要と考える。	○住民主体の介護予防活動の取組の推進	・住民主体の通いの場（体操等）実施地区 (H30) (R1) (R2) 実施地区 3地区 4地区 6地区 (H30実績：八雲地域3地区、熊石地域1地区) (R1実績：八雲地域11地区、熊石地域6地区)	住民主体の通いの場（体操等）実施地区 (R2実績：八雲地域12地区、熊石地域7地区)	◎	両地域ともに生活支援コーディネーターの働きかけにより順調に実施地域が増えている。今後も引き続き未実施地区の実施に向けて働きかけを行っていくが、行政からの押し付けでは継続されないため、住民の意向に沿って勤めて行く。
八雲町	①自立支援・介護予防・重度化防止		○介護予防事業の充実	・運動教室の実施 (H30) (R1) (R2) 参加者数 40人 50人 60人 (H30実績：落部24人、八雲24人、熊石23人) (R1実績：落部20人、八雲21人、熊石31人)	運動教室の参加者数（実人数） (R2実績：落部15人、八雲26人、熊石23人)	◎	H30年度にNPO法人に委託して実施。初年度は参加者の出入りが激しく、継続して参加する人が少なかったが、参加者の出入りも少なく継続されている。運動効果は柔軟性と筋持久力は維持・向上が見られているが、歩行速度は低値を示している状況である。参加者のレベルに差があるため歩く機会を多くすることは難しいため足踏み運動を多く取り入れて行くほか、広報等での周知を行い、各会場の参加者を定員である25人を目指す。
八雲町	①自立支援・介護予防・重度化防止		○リハビリテーション専門職の介護予防への関与の促進	・短期集中予防サービス (H30) (R1) (R2) 実施回数 24回 24回 24回 (H30実績：八雲地域5回、熊石地域12回) (R1実績：八雲地域1回、熊石地域9回) ・リハビリテーション専門職の介入回数 (H30) (R1) (R2) 介入回数 30回 35回 40回 (H30実績：八雲地域9回、熊石地域24回) (R1実績：八雲地域9回、熊石地域11回)	・短期集中予防サービスの実績 (R2実績：八雲地域4回、熊石地域11回) ・リハビリテーション専門職の介入回数（地域ケア会議含） (R2年度実績：八雲地域11回、熊石地域27回)	○	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標には達していないものの八雲地域の実績も増えて来ており、今後もケアマネジャーなどへの周知により必要な方にリハビリテーション専門職が介入できるようにしていく必要がある。 さらに、リハビリテーション専門職が介入したことによる効果を示すための評価方法について検討する。
八雲町	①自立支援・介護予防・重度化防止	地域ケア会議は地域包括ケアシステムの実現のための有効なツールとされており、これまでも介護支援専門員やサービス提供者等との情報提供、研修会等として開催してきたが、八雲地区の地域ケア会議の回数が少なく、事例検討などが十分に出来なかった。	○地域ケア会議の推進	・地域ケア会議開催回数 (H30) (R1) (R2) 開催回数 18回 24回 24回 (H30実績：八雲地域6回、熊石地域12回) (R1実績：八雲地域10回、熊石地域11回) ・個別事例検討回数 (H30) (R1) (R2) 検討回数 24回 30回 30回 (H30実績：八雲地域3事例、熊石地域19事例) (R1実績：八雲地域2事例、熊石地域11事例)	・地域ケア会議開催回数 (R2実績：八雲地域11回、熊石地域10回) ・個別事例検討回数 (R2実績：八雲地域8事例、熊石地域11事例)	○	地域ケア会議は、八雲地域はR1年度よりケアマネジャー部会を設けて、毎月開催となったものの、新型コロナウイルス感染症により中止となったため、回数が減った。個別事例の検討は八雲地域も件数が伸びており、熊石地域は自立支援に向けた介護予防事例の検討を実施しているが、各専門職からの意見の引き出し方など司会進行のスキルアップが必要であり、今後も事前の打ち合わせ、資料の準備等を行って行く。個別事例の検討で出された地域課題を両地域で報告し対策を検討する必要がある。